

組織目標評価報告書 (平成29年度)

部局名: 大学院医歯薬学総合研究科 薬学系

部局長名: 檜垣和孝

| 目 標   | 目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組<br>(部局での検証とそれに対する取組)   |
|---|--|
| <b>①教育領域</b>  |  |
| <b>①-1 目標</b><br>・教育の実施体制(組織的なFD、教員のイニシアティブ向上)について<br>教育効果を把握し、各講義の質を高めるべく、チャトルカードを使用して学生の理解度と問題点の有無について把握を目指す。<br>学部教育と同様に大学院講義についても、教員FDにおいて、検証ならびに改善点を見出す。<br>外部非常勤講師に関しては、本学に無い重要分野や最先端の研究を紹介できる研究者を積極的に採用し、院生のモチベーション向上を促す。<br>・教育方法・内容について<br>現在の講義に加えて、新たに大学院生の「教養教育」に相当する講義について、FDなどにより議論することで、計画を進める。<br>・教育の成果(学習の成果、卒業後の進路)について<br>学習(講義やセミナー)の成果や習熟度に関しては、アンケートやチャトルカードを基に把握に努める。<br>問題点については、学生支援対策委員会や学務委員を通じて対応を試みる。<br>院生の進路に関しては、アンケートの実施などにより学生の希望を調査し、教員へ情報をフィードバックすることで、就職活動時に役立てる。最終的に希望との合致/乖離の有無についてデータ化を検討する。<br>・学生支援について<br>副指導教員制を導入・徹底し、学生支援体制の強化をはかる。<br>・国際共同による教育の状況について<br>・外国人留学生の受入れ推進に向けた大学院入試体制の整備に努める。<br>・海外特別入試の導入について検討を進める。<br>・外国人留学生の受入れ状況について<br>・博士後期課程在学中のミャンマーFDA職員1名に対する研究指導を継続実施する。<br>・ミャンマーFDA職員2名を博士後期課程研究生として受け入れ、学位論文研究指導教員のマッチングを行い、博士後期課程(10月入学)として受け入れる。<br>・キャンパスアジア・ナノバイオコース(短期)受入プログラムを実施し、参加希望の成均館大学薬学校(韓国)大学院学生があれば受け入れる。 | <b>①-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</b><br><b>○教育の実施体制(組織的なFD、教員のイニシアティブ向上)について</b><br>大学院講義においてもチャトルカードを導入し、学生の理解度と問題点の有無について把握した。FD委員会主催による定期的な教員FDを介して、教育(講義や研究活動など)に関わる事項の意見交換を行い、点検と改善に努めた。また、外部非常勤講師に関しては、世界トップレベルの研究者を招き、大学院講義のみならず、学生・院生・教員を対象にした特別講演会を設定してモチベーション向上を図った。<br><b>○教育方法・内容について</b><br>大学院生の「教養教育」に相当する講義に関して、FDなどにより議論を重ね、統一の見解を得たことから、計画を進めた。<br><b>○教育の成果(学習の成果、卒業後の進路)について</b><br>学習の成果に関しては上述の通りである。院生の修了後進路に関しては、ほとんどが製薬あるいはその関連会社の研究開発や品質管理部門に内定しており、学生の希望と合致した進路となっている。また、実際に大学院に入学直後における進路希望との乖離があるか否かを把握するために、オリエンテーション時にアンケートを実施した。来年度に結果が得られる予定である。<br><b>○学生支援について</b><br>・成均館大学(韓国)薬学校大学院の学生1名を、協定に基づくダブル・ディグリーコース学生として博士後期課程に受け入れた。<br>・ダブル・ディグリーでの連携教育の一環として、成均館大学教員を招へいし、ダブル・ディグリーセミナーを開催した。<br>・ミャンマーFDAとの大学間協定に基づき、新たにミャンマーFDA職員2名を博士後期課程(10月入学)に受け入れた。<br>・外国人留学生の受入れ推進に向けた大学院入試体制の整備に向けて検討を始めた。<br>・海外特別入試の導入に向けて検討を始めた。<br>・外国人留学生の受入れ状況について<br>・博士後期課程に成均館大学(韓国)薬学校大学院の学生1名をダブル・ディグリープログラム学生として受け入れた。<br>・博士後期課程在学中のミャンマーFDA職員1名に対する研究指導を継続実施した。<br>・新たに博士後期課程研究生として受け入れたミャンマーFDA職員2名を研究指導教員とのマッチングを経て博士後期課程(10月入学)に受け入れた。<br>・薬学部で実施したキャンパスアジア事業のナノ・バイオコース(短期)受入プログラムに参加した成均館大学薬学校(韓国)の大学院学生2名に薬学部の外国人短期研修生受入プログラムの修了証の発行した。 |
| <b>①-2 全学の組織目標との関連</b><br>○国際共同による教育の状況について<br>大学として定める目標①に掲げる留学生受入れの「数値目標の達成」に向けた目標である。<br>○外国人留学生の受入れ状況について<br>社会貢献・国際担当理事が掲げる目標②に具体的に示されたミャンマー人材育成のための事業をさらに推進するための目標である。  | <b>①-2 大学全体への貢献</b><br>・ダブル・ディグリーコース学生として博士後期課程に成均館大学(韓国)薬学校大学院の学生1名を受け入れたことは、本学の国際連携教育の特筆すべき成果である。<br>・制度設計と事前の大学間での教務関係の調整事項などは、ダブル・ディグリーを自然科学系で展開する際の参考となる。<br>・博士後期課程へのミャンマーFDA職員(計3名)の受入・研究指導は本学が推進するSDGs支援の実践例として特筆すべき成果である。   |
| <b>①-3 目標とする(重要視する)客観的指標</b><br>○外国人留学生の受入れ状況について<br>・博士後期課程に受け入れたミャンマーFDA職員数/計画受入数   | <b>①-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</b><br>○外国人留学生の受入れ状況について<br>・博士後期課程ダブル・ディグリーコースに受け入れた成均館大学(韓国)薬学校大学院学生1名<br>・博士後期課程に受け入れたミャンマーFDA職員数3名/計画受入数3名   |
| <b>②研究領域</b>  |  |
| <b>②-1 目標</b><br>○研究水準及び研究成果等について<br>・新規採用教員を交え、基礎及び臨床薬学分野の研究強化を図り、また各種連携プロジェクトの準備を進める。<br>○研究実施体制等の整備について<br>・社会からの要請や科学技術にかかわる政策の動向、また競争的資金にかかわる制度改革に留意しながら、構成員が自律的に外部資金獲得に努める。<br>・研究成果を出すことを目的として、共同機器や研究スペース活用の在り方を検討する。<br>○その他<br>・研究倫理、研究コンプライアンスについての指導・周知を継続し、徹底する。<br>・地道な支援を行いながら、各分野において基礎的あるいは応用的に価値の高い研究業績を挙げ、ホームページ等で広報する。<br>・サパティカル制度導入にあたっての取り組みの検討を行う。  | <b>②-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</b><br>・横断的連携プロジェクトの準備として、各研究室の取り組みをまとめ、可視化を行った。これによって、今後の連携プロジェクトの礎を作成した。これを対外的説明の機会にも活用することで、連携のきっかけづくりを進めた。<br>・教員会議の際などにおいて、SDGsを含む社会からの要請や、科学技術にかかわる政策の動向、また競争的資金にかかわる制度改革の状況を説明した。これにより構成員の意識を高めた。構成員はこれに基づいて自律的に外部資金獲得に努めた。<br>・共同機器や研究スペース活用の在り方を学部学系執行部会議や教員会議などにおいて検討した。これを通じて、オープンラボの設定やスペースの有効活用、機器の管理運用方法の改善を図った。<br>・研究倫理、研究コンプライアンスについての指導・周知を、教員会議等の機会に引き続き行った。<br>・各分野において基礎的あるいは応用的に価値の高い研究業績を挙げ、ホームページ等で広報を行った。  |
| <b>②-2 全学の組織目標との関連</b><br>「異分野融合研究の追求」(中期計画82)、土地・建物の有効活用、戦略的活用を推進(中期計画86、87、88)、法令遵守(研究活動における不正防止、教員等個人宛寄附金の適正な管理など)(中期計画92、93)、外部研究資金等の獲得の推進(中期計画:38、39、79)等に関連する   | 学長以下の推進する国連SDGsの方向に沿った研究の取り組みを進めたと考える。また、以下の中期計画に貢献したと考える。土地・建物の有効活用、戦略的活用を推進(中期計画86、87、88)、法令遵守(研究活動における不正防止、教員等個人宛寄附金の適正な管理など)(中期計画92、93)、外部研究資金等の獲得の推進(中期計画:38、39、79)等。   |
| <b>②-3 目標とする(重要視する)客観的指標</b><br>○論文・書籍等の研究業績の状況<br>○各種外部資金受け入れ状況<br>○学部・研究科等を代表する研究業績リスト(インパクトファクターのみならず、研究手法が妥当であれば応えようとする社会課題の大きさも勘案)<br>○若手教員・女性教員・外国人教員の採用状況  | <b>②-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</b><br>新規教員を交えて各研究室の取り組みをまとめ可視化し、横断的連携プロジェクトの準備として今後の連携プロジェクトの礎を作成した。教員会議などにおいて、SDGsをはじめとする社会要請や科学技術政策の動向、また競争的資金の制度改革の状況を説明し、構成員の意識を高めた。構成員が自律的に外部資金獲得に努めた。また研究倫理、研究コンプライアンスについての指導・周知を継続した。教員採用では、若手、女性、外国人教員の比率が向上するよう選考時の努力を行った。   |

| <b>③社会貢献(診療を含む)領域</b>  |   |
|--|---|
| <b>③-1 目標</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・地域社会との連携、社会貢献について</li><li>・薬剤師及び一般社会人等を対象とした薬学公開講座の開催等を通じて、薬学に関する最新情報の提供と知識の向上に努める。</li><li>・国際交流・協力について</li><li>・韓国・成均館大学との連携を更に深めると共に、アジアの有力大学・研究機関等との連携を進め、国際交流を推進する。また、中国の研究機関等との研究協力をさらに進める。</li><li>・その他</li><li>・薬用植物園の一般公開を実施し、薬学関連の科学に対する社会的な理解を進める機会とする。</li></ul>  | <b>③-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</b> <ul style="list-style-type: none"><li>○<b>地域社会との連携、社会貢献について</b></li><li>・薬剤師及び一般社会人等を対象とした公開講座、高校生及び一般を対象とした公開講演会を実施した。</li><li>・医歯薬学総合研究科で実施した、岡山健康講座2017において一般市民を対象とした公開講演を行った。</li><li>○<b>国際交流・協力について</b></li><li>・成均館大学(韓国)、ハイフォン医科薬科大学(ベトナム)およびサン・カルロス大学(フィリピン)なおのアジア各地の有力大学との持続的な連携・交流の実施あるいは基盤作りができた。</li><li>・本学が推進する国際社会人Dr展開支援プログラムに則り、ハイフォン医科薬科大学(ベトナム)の若手教員の学位取得支援について、同大学の学長を招へいし、学長間の意見交換の機会を設けた。(課題として、両大学で候補者受入のための奨学金の確保と授業料等の優先免除が挙げられた。)</li><li>○<b>その他:</b></li><li>・公開講演会、公開講座及びスーパーグローバルホームカミングデーの際に薬用植物園の一般公開を実施し、多数の参加者に薬学関連の社会的な理解を進める機会とした。</li><li>・スーパーグローバルホームカミングデーにおいて、薬学部の海外連携について紹介を行った。</li></ul>  |
| <b>③-2 全学の組織目標との関連</b> <p>薬剤師及び一般社会人等を対象とした公開講座等の実施は、平成29年度岡山大学組織目標⑥実践型社会連携教育の推進に貢献するとともに、社会貢献・国際担当理事が掲げる目標①おみやま地域発展協働体等を通じた積極的な事業展開にも寄与するものである。</p> <p>また、アジア等の有力大学・研究機関等との連携や協力は、平成29年度岡山大学組織目標②全部局の学生派遣・留学生受け入れプログラム並びに体制の強化・充実に基づく数値目標の達成に寄与するものである。</p>   | <b>③-2 大学全体への貢献</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・スーパーグローバルホームカミングデーにおいて、薬学部の海外連携について紹介を行うことで本学のSGUへの取組について地域での認知度向上に寄与した。</li><li>・公開講座、ホームカミングデーにおける薬用植物園の一般公開を通じて、岡山大学としての社会貢献に寄与した。</li><li>・薬剤師及び一般社会人等を対象とした公開講座により関連業界関係者をはじめとした地域住民に本学での研究教育での取組について認知度向上に寄与した。</li><li>・国際社会人Dr展開支援プログラムに則るハイフォン医科薬科大学(ベトナム)の若手教員の学位取得支援は、本学が推進するSDGs支援に直結する事業となり得る。</li></ul>  |
| <b>③-3 目標とする(重要視する)客観的指標</b> <ul style="list-style-type: none"><li>○公開講演会等の実施状況</li><li>○地域貢献・国際貢献への協力の状況</li></ul>  | <b>③-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</b> <ul style="list-style-type: none"><li>○<b>公開講演会等の実施状況</b></li><li>・薬剤師及び一般社会人等を対象とした公開講座には71名、高校生及び一般を対象とした公開講演会には73名の参加者を得た。</li><li>・医歯薬学総合研究科岡山健康講座2017における公開講演では、116名の参加者を得た。</li><li>○<b>地域貢献・国際貢献への協力の状況</b></li><li>・アジア各地の有力大学・研究機関等への連携推進のための教員の派遣・視察件数は、延べ43日である。</li><li>・アジア各地の有力大学・研究機関等からの連携推進のための教員・職員の派遣・視察件数は、延べ30日である。</li></ul>  |
| <b>④管理運営領域</b>   |   |
| <b>④-1 目標</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・部局組織の活性化について</li><li>・適切な部局運営を行うために、医学系、歯学系と継続的に協力していく。</li><li>・ダイバーシティの推進(女性教員・外国人教員比率・次世代育成支援等)について</li><li>・本学系は、女性教員の割合は、比較的高い方だが、引き続き、女性教員の採用、昇進等の可能性について検討していく。</li><li>・効率的・戦略的な予算配分・執行について</li><li>・省エネ意識を喚起するなどにより経費節減をはかるとともに、各委員会等の実施計画等を精査し、より効果的な予算執行を目指す。</li><li>・安全衛生に対する配慮について</li><li>・適切な管理活動計画を立案し、それに基づき、適正な安全衛生活動を推進していく。</li><li>・法令遵守の徹底について</li><li>・情報セキュリティ、適切な会計処理、適正な研究活動等に関し、継続的に、法令遵守について啓発すると共に、講習、webシステム等により、確認、周知をはかる。</li><li>・その他</li><li>・国際交流に関して、引き続き、成均館大学、台北医科大学、ミャンマーFDA等との交流を深め、実質的な学生交流を目指していく。</li></ul> | <b>④-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</b> <ul style="list-style-type: none"><li>○<b>部局組織の活性化について</b></li><li>・適切な部局運営を行うために、医学系、歯学系と協力し、多職種連携による教育、グローバル化への取り組みについて協議し、体制作りを行った。</li><li>○<b>ダイバーシティの推進(女性教員・外国人教員比率・次世代育成支援等)</b></li><li>・現在の人員及び将来の人事異動も視野にいれ、女性教員、外国人教員の登用について検討した。</li><li>○<b>効率的・戦略的な予算配分・執行について</b></li><li>・全教職員に、省エネ意識を喚起することにより経費の節減を図った。また、各委員会にかかる経費についても、計画とは別に、詳細な検討をしながら進めることで、効率的に執行した。</li><li>○<b>安全衛生に対する配慮について</b></li><li>・年度当初にたてた活動計画に基づき、適正な安全衛生活動を推進した。</li><li>○<b>法令遵守の徹底について</b></li><li>・情報セキュリティ、適切な会計処理、適正な研究活動等について、講習、webシステム等により、法令遵守についての再教育、啓発を行った。</li><li>○<b>その他</b></li><li>・国際交流については、成均館大学とのダブルディグリー制度の実質化を筆頭に、ミャンマーFDAの職員の博士後期課程学生としての受け入れなど、着実に進めている。</li></ul> |
| <b>④-2 全学の組織目標との関連</b> <p>国際交流の活性化、より効果的な予算執行、法令遵守、安全衛生に対する取組等、全学の組織目標に合致したものと考える。</p>   | <b>④-2 大学全体への貢献</b> <p>国際交流の活性化、効果的な予算執行、法令遵守、安全衛生に対する取組、いずれも大学の組織目標に合致したものであり、本年度の執行状況は、十分なものであると考えられる。</p>  |
| <b>④-3 目標とする(重要視する)客観的指標</b> <ul style="list-style-type: none"><li>法令遵守の徹底と安全衛生の推進(コンプライアンス・安全衛生に係る研修を全教職員の受講を目指す。)</li></ul>  | <b>④-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</b> <ul style="list-style-type: none"><li>e-ラーニング、及び担当理事によるコンプライアンス研修会にて、全教員について、公的研究費等の不正防止に係る教育を行った。情報セキュリティに関してe-ラーニングによる教育を実施の徹底を図った。</li></ul>   |
| <b>【総括記述欄】</b> <p>教育、研究、社会貢献領域、いずれも当初目標を良好に達成したものと評価している。来年度は、29年度に得られた成果を踏まえて、教育領域では、博士課程、博士後期課程への進学率の向上を目指した取り組みを模索し、かつより質の高い大学院教育を目指す。研究面では、大型プロジェクト、大型研究費獲得を目指し、検討を進める。社会貢献領域においては、引き続き公開講座を実施し、薬学に関する最新情報を一般社会人、薬剤師に提供するとともに、アジアの有力大学を中心に、国際交流を深めるようつとめていく。</p>   |   |